



弥富に住んでみたい！住み続けたい！を考える オンラインワークショップまとめ



令和 2 年 11 月

弥富市



1.ワークショップの概要

目的

地方創生を推進する本市の計画である「弥富市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の第2期改訂にあたり、本市の地域課題の掘り起こしとその課題解決に向けた取り組むべき事業のアイデア・提案について検討し、計画に反映することを目的とする。

実施方法

オンライン（Web会議システム「Zoom」を使用）

開催日時

第1回 令和2年9月26日（土） 午前10時～12時
第2回 令和2年10月10日（土） 午前10時～12時
第3回 令和2年10月24日（土） 午前10時～12時

参加者

市内に在住、在学、在勤のいずれかに該当する方
まちづくりを研究している学生等 計22名

※参加者からリーダーを選抜、話し合いの進行を務めていただきました。

コーディネーター

名古屋市立大学 人文社会学部 三浦 哲司准教授

ファシリテーター

名古屋市立大学 佐藤則子研究員
ランドブレイン株式会社（運営補助等）

2.ワークショップ 3 回のながれ

弥富市の現況・課題を整理して共有しよう！

◆ オリエンテーション ◆

弥富市の現況・課題と総合戦略について

◆ グループワーク ◆

「まち」「ひと」「しごと」のテーマごとに弥富市の良いところや足りないところについて意見を出してもらい、弥富市の現況・課題についての整理を行いました。

第1回

テーマ別に課題や目指すべき将来像を考えよう！

◆ オリエンテーション ◆

地方創生の取組を考えるポイント、他市の好事例について

◆ グループワーク ◆

「まち」「ひと」「しごと」の3つのグループに分かれて、弥富市の「良いところ」や「良くないところ」「伸ばしたいところ」や「足りないもの」など、前回の振り返りをふまえ、重点課題・伸ばすべき長所を整理しました。そして課題を解決し長所を伸ばした時の「目指すべき将来像」について考えました。その将来像を実現するための取組アイデアを提案し、様々な角度から意見交換を行いました。

第2回

課題解決に向けた具体的な取組を提案しよう！

◆ オリエンテーション ◆

取組を形にしていく際のポイントについて

◆ グループワーク ◆

引き続き、「まち」「ひと」「しごと」の3つのグループに分かれて、目指すべき将来像の実現に向けた取組アイデアを市の事業として実行できるよう、具体的な取組の内容について話し合いました。最終的には各グループで1つ以上の取組が提案されました。

第3回

3.第1回ワークショップ

オリエンテーション

弥富市の現況・課題、総合戦略について

弥富市の現況・課題、総合戦略について①

市民アンケートより

良い

- ・作りやすい
- ・夜の散歩などで散歩で20分以内
- ・駅やインターチェンジなど公共施設の充実
- ・自然が豊か
- ・再訪ができて、人が温かく優しい

悪い

- ・施設・地域により差がある
- ・緑地が確保されていない
- ・市内の公共交通機関(きんちゃん(バス)が不便
- ・商業施設が古い
- ・飲食店や娯楽施設などの人が集まる場所がない
- ・地区の付き合いが悪いと感じてる

第1回弥富市まち・ひと・しごと

- ・災害に対する危機感の向上
- ・防災関係以外のNPOを育成する必要が
- ・地域スポーツが活発で、高齢者の関与
- ・子育てのしやすさを確保する
- ・若手女性が増えているのか分岐が必要
- ・インクルーシブな環境づくりが必要
- ・若者が居られるような仕組みが必要(スポーツ)

弥富市の現況・課題、総合戦略について②

第2期弥富市総合戦略の策定方針

【策定方針(目的)】

【第1期総合戦略(2017-2020)】

【第2期総合戦略(2021-2024)】

第2期総合戦略策定の目的や計画期間、弥富市の人口、出生率、強みや弱みなどを説明しました。第1期総合戦略の4つの基本目標はそのままに、子育て世代の市外への転出を減らし、弥富市に住んで子どもを育てる人を増やすために、市と市民が一緒に考えて活動していきたいという方向性を示しました。

グループワークの様子

個人ワークで、しっかりと自分の意見を固めた後、グループワークに移りました。

全員が、「まち」「ひと」「しごと」の3つのテーマについて意見が述べられるように、短い時間で1回のセッションを区切り、合計で3セッションの意見交換を行いました。

また、参加している色々な人と意見を交換できるよう、1回ごとのセッションでグループメンバーもシャッフルしました。Zoomのホワイトボード機能を有効に活用して意見を交換しました。

そのため、多様な意見がたくさん出る結果となりました。第1回ワークショップ後の参加者アンケートでは、普段なかなか話す機会のない世代の人と意見を交換できたことが有意義だったという声が多かった一方、1回のセッションの時間が短く、参加者同士でゆっくり話すことができなかったという声も多くあり、次回への課題になりました。

第1回のまとめ

まち



良いところ	良くないところ	伸ばしたいところ	足りないもの
交通面 <ul style="list-style-type: none"> 交通のアクセスが良い 名古屋や桑名に行きやすい 高速インターがあり遠くへの旅行がしやすい 	まちづくり全般 <ul style="list-style-type: none"> 市の活動の情報発信が不足 紙媒体だけでなくSNSを活用した情報公開・意見形成 	まちづくり全般 <ul style="list-style-type: none"> 市民にまちづくりを自分ごとと思ってもらう取組 金魚と文鳥はもっとコンテンツを作りPRしたい 一時的な観光の導線をお菓子屋さんに注力した観光事業をさらに行う 十四山地区で農業公園整備。エコミュージアムを作る。 	まちづくり全般 <ul style="list-style-type: none"> 世代を超えた交流の場をつくる イベントや取組みを知る機会が少ない イメージの向上 観光協会のセンター
自然・地理 <ul style="list-style-type: none"> 自然が豊か、緑や河川が多い 坂道が無く、自転車で移動しやすい 	交通面 <ul style="list-style-type: none"> 車が無いと生活が不便 きんちゃんバスが不便 早朝の渋滞が困る 	交通面 <ul style="list-style-type: none"> 川がきれいでない 三つ又地に芝桜が根付かない 	交通面 <ul style="list-style-type: none"> 南北の利便性 駅前活性化を検証する 公共交通の利便性向上
生活環境 <ul style="list-style-type: none"> 海南病院があり安心 地域によっては、生活に必要な医療、買い物、福祉施設等まとまっていて便利 スポーツ施設など健康に力を入れている 	生活環境 <ul style="list-style-type: none"> 市の南北で生活しやすさに格差がある 地区によって高齢者の買い物難民などが発生 	交通面 <ul style="list-style-type: none"> 自転車道の整備 市内移動が難しい 	生活環境 <ul style="list-style-type: none"> 駅前が寂しい お店が少ない 飲食できる店舗の充実 ネット環境の拡充
防災 <ul style="list-style-type: none"> 排水基盤が充実している 救助訓練も充実している 	防災 <ul style="list-style-type: none"> 伊勢湾台風を知る人が減っている 高くて頑丈な建物が少ない 等防災に力を入れているイメージが少ない 地盤が低く、水害が怖い 	生活環境 <ul style="list-style-type: none"> 南部に薬局が欲しい 高齢者以外の健康施策 	防災 <ul style="list-style-type: none"> 市民の意識向上

ひと



良いところ	良くないところ	伸ばしたいところ	足りないもの
少子化対策 <ul style="list-style-type: none"> 婚活パーティでカップルが誕生している 	まちづくり全体 <ul style="list-style-type: none"> 情報発信が弱い 事業や取組を知らない人が多い 市政への関心が低い オンラインの活用など市民の声を聞く態勢を 困地などが高齢化し、空き家と高齢者の街という印象がある 	まちづくり全体 <ul style="list-style-type: none"> 人口が少ない、自治意識を高める態勢を整備する 市民の主体的なまちづくり意識を向上させる 	まちづくり全体 <ul style="list-style-type: none"> 若者や学生を巻き込む もっと市の活動と関わるようにPRする 移住動機調査を行う 若者向けの施設が少ない、遊ぶ場がない
教育 <ul style="list-style-type: none"> 毎年の修学旅行、スポーツチームが多い、塾が多い 英語教育も早くから充実 	教育 <ul style="list-style-type: none"> 学校教育に力を入れていない、子供も退屈 学区ごとに児童数のバランスが悪く差がある 	子ども子育て <ul style="list-style-type: none"> 病児・病後児保育事業があることを知ってもらう 保育園の選択肢が少ない 	教育 <ul style="list-style-type: none"> 義務教育で市を学ぶ機会を作り地元愛を醸成する 教育現場でのオンラインの活用が少ない 高校・大学が無い
子ども子育て <ul style="list-style-type: none"> 中学生まで医療費無償化、病児・病後児保育支援など、子育てで支障が充実している 待機児童ゼロ 公園や遊び場が十分ある 海南病院があり出産も安心 	子ども子育て <ul style="list-style-type: none"> 情報発信が弱い、サービスを知らない人がいる 子育て世代が意見を言えない感じがある 	教育 <ul style="list-style-type: none"> 大学や専門学校があるとよい 農業体験など教育を工夫し、弥富市に特色のある学校があるとよい 民間と協力し、オンラインを活用し教育に生かす 	子ども子育て <ul style="list-style-type: none"> 大きな病院が北部にあるが、南部住民は不安、出産後の交流が難しい
コミュニティ活動 <ul style="list-style-type: none"> イベントや盆踊りなどの祭りが良い コミュニティ活動が活発 住民の交流が多い 農地が住宅化され若い住民が移住している 	子ども子育て <ul style="list-style-type: none"> 村文化、新しいもの嫌いな新しい移住者が排他的に感じる時がある 属性の異なる人との交流が少ない 	コミュニティ活動 <ul style="list-style-type: none"> 北部(都市部)は自治会活動が盛んでない 異年齢間の交流 	コミュニティ活動 <ul style="list-style-type: none"> 近所づきあい(若者・外国人) 移住者、違う世代など異なるコミュニティの交流
防災 <ul style="list-style-type: none"> 防災がしっかりしていて子育て世代やお年寄りは安心 			防災 <ul style="list-style-type: none"> 高齢者への取組が少ない

しごと



良いところ	良くないところ	伸ばしたいところ	足りないもの
市の自慢 <ul style="list-style-type: none"> 川崎重工(大企業がある) 名古屋港 バラ農家 日本の金魚 航空宇宙産業 	産業 <ul style="list-style-type: none"> 金魚産業の担い手が減っている 金魚産業の担い手は観光資源や伝統産業の意識がない 農業の後継者不足 市内で文鳥を見たことがない 金魚池の減少 魅力の発信 	産業 <ul style="list-style-type: none"> 農業 金魚産業の後継者 港湾部の物流拠点の伸び代は感じるが交通が不便 	産業 <ul style="list-style-type: none"> 産業のPRが少なく、認知度が低い 文教施設、大学が無い 海が見える産業もある、というPR方法もある 文鳥産業の衰退 盛んな産業を活かしたご当地グルメが無い
産業 <ul style="list-style-type: none"> 弥富の金魚は知名度がある 文鳥愛好家が多い、弥富は聖地 	雇用 <ul style="list-style-type: none"> リモートワークを推進し、大都市の就業需要の受け皿となる 市内のエリアを分けて、幹線道路沿いに企業誘致 コンセプトのある店舗、飲食店の誘致 駅前商店街の復活、商業施設の誘致 	雇用 <ul style="list-style-type: none"> リモートワークを推進し、大都市の就業需要の受け皿となる 市内のエリアを分けて、幹線道路沿いに企業誘致 コンセプトのある店舗、飲食店の誘致 駅前商店街の復活、商業施設の誘致 	就労支援 <ul style="list-style-type: none"> 市内の仕事を知ったり、紹介する場がない 商工会議所にキャリアコンシェルジュを配置し、雇用・就労の支援をする 空いている農地がたくさんある、耕作地として新しい就業の場にする
働き方 <ul style="list-style-type: none"> 名古屋市内に近く、ベッドタウンとして機能的 生活することに重視したまちづくり 快適な住環境やリモート活用の導入を推進する 	就労支援 <ul style="list-style-type: none"> 求人情報サポートがある インターンシップ制度を導入する企業を増やす 排他的な気風があり、起業しても知人がいない 転入者は最初は大変 名古屋市内に近いので、名古屋まで来て働く必要がない 	就労支援 <ul style="list-style-type: none"> インターンシップの導入を推進し弥富で働くイメージを若い人にも持ってもらおう ITが苦手な人へ出前講座をやる 	その他 <ul style="list-style-type: none"> フリーWi-Fiなどのインフラが無い 商品券なども使い方がわからない 若者向けのファッションの店が少ない 市内企業同士の連携促進

4.第2回ワークショップ

オリエンテーション

地方創生の取組を考えるポイント、他市の好事例について

地方創生の取組について①

【準備を覚えていくうえでのポイント】

- ①地域課題に対応するものであること
→地域づくりに事業を推進することができる
- ②事業の規模感
→2年前で成果が得られる
→あまりに大規模が大きいものはNG
- ③採算性
→3年以内(平均6年以内)は自己完結させること
- ④事業に関わっていく(検証していく)
→本と併せて一掃に取り組みのシートも必要

地方創生の取組について②

地方創生の取組について②

弥富市の課題を整理し、目指すべき将来像を設定、取組アイデアを具体的に提案していくにあたり、地方創生の取組についての考え方のポイントを説明しました。併せて、第2期総合戦略の計画期間や国からの交付金について説明し、それを活用した他市で既に取り組まれている取組例について、提案のヒントとして紹介しました。

グループワークの様子

防災を活動した豊岡都市になる!!

4-F2 取組

弥富市 しごと

参加者一人ずつを「まち」「ひと」「しごと」のテーマに分けて、腰を据えた話し合いが行われました。

まず、前回出された「良いところ」「伸ばしたいところ」をさらに掘り下げて考えるところから始めました。弥富市の伸ばすべき長所、克服すべき課題としてそれぞれのテーマでたくさんの項目が挙がりました。

次に挙げられた項目を改善できた時、どんな弥富市になっていたか、どの方面を伸ばしていくか、弥富市の「目指すべき将来像」をテーマごとに設定しました。

そこから「目指すべき将来像」に近づくために、今後何を行っていくべきか、取組のアイデア出しを行いました。

参加者の中からリーダーが選出され、リーダーを中心として市民同士の話し合いが積極的に行われました。

第2回のまとめ

まち



課題や長所	防災	<ul style="list-style-type: none"> ▼伊勢湾台風を知らない若い人の防災の意識が低い ▼市の南北で古い建物数などに差がある。 ▼海抜マイナス地区で危ないというイメージがある。 ◎排水など防災への取組みが充実している。認知度は低い。
	まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ▼地域行事の参加率の低下など地域への関心が下がり、参加者が隔っている。 ▼移住者に弥富市への最初のとっかかりや、移住先としての市のブランディングが無い。 ▼市民の弥富市への関心、誇りや、愛着が薄い。 ◎平時はとても暮らしやすい
	交通	<ul style="list-style-type: none"> ▼きんちゃんバスは近隣市町のバスと連携した運営は不可能か。
	観光	<ul style="list-style-type: none"> ◎イメージを伝えると反応も良く名産もあるが、▼気軽に観光ができにくい。
取組アイデア	防災	<ul style="list-style-type: none"> ・防災フェスの開催。市民も防災意識が高いので、市民を巻き込んで防災対策の充実ぶりを周知する。 ・防災拠点としてコンチナホテルを南部への設置。観光へも活かす。(将来的な取組みを促進する。) ・防災教育の充実を図る。
	観光	<ul style="list-style-type: none"> ・水路を活かした船などの運営。普便われていた交通手段を観光に活かす。 ・交通の便が良いので、利点を生かしてまち並みの整備を行う。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋のベッドタウンとして最適な要素がある。 ・すべての世代に優しい住環境をつくる。 ・子育ての容易さ、高齢者の良好な終の棲家などを実現し、幅広い世代間の交流を促す。 ・人と人との交流を促進し、協働する環境をつくりだす。
目指すべき将来像	防災	<ul style="list-style-type: none"> ・防災を活かした観光都市になる。(5年後くらい?) ・「海抜マイナスだから心配」のイメージを変える。 ・安心なまちだというアピールを観光の視点で行う。→移住に繋がる。

ひと



課題や長所	イベント	<ul style="list-style-type: none"> ▼若者向けのイベントや店が無い。▼三ツ又池公園が活用うまくできていない。 ▼市のイベントは固く感じる。 ▼世代間交流が少ない。▼イベントなどがうまく活用できていない。 ▼防災園の脆弱性を克服する強みが必要。▼隣近所を知っていることが防災につながる。
	教育	<ul style="list-style-type: none"> ▼弥富市ならではの特色のある教育(弥富の農業、自分で作った野菜を食べる食育など)が少ない。
	情報	<ul style="list-style-type: none"> ▼情報発信が弱い。▼市民が動いていくことが必要で楽しく参加できるよう工夫する。 ▼名古屋に近いというメリットを生かしたい。
	コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ▼封建的で負担の重い自治会が多い。▼負担の少ない自治会をめざす。
取組アイデア	イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・三ツ又池公園を活用したみんなが楽しめる、世代間でふれあえるイベントの定期的な開催 ・イベント内容/やとのかめ市(8月、10月、3月)/キッチンカー、芋振り/防災イベント/全魚活用イベント/音楽イベント/自然を感じるイベント/コンサート
	観光	<ul style="list-style-type: none"> ・弥富市へ来たいと思わせる情報発信 ・高校生たちの部活動みたいな活動 ・SNSやラジオ(FM813)発信活動推進。若い世代への発信 ・イベント情報や、防災に強い、というイメージをつくるための発信など
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・弥富にきて良かったと思うものをつくる ①教育の充実/オンライン化の促進、「農」や「自然」に関わる教育 ②若者向けのイベントや店の誘致 ③高齢になっても住み続けたい環境をつくる/介護と居住のサポートの充実 ④防災につながる人のつながり/重くない自治会、隣近所の顔が見える関係づくり ⑤使われていない畑などの有効活用/高齢者とのふれあい
目指すべき将来像	-	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人が永住できるようなまち ・住み続けたい弥富市 ・よりそう、取り残さないというフレーズを入れ込みたい。 ・すみやすいまち弥富市 ・取り残さない、誰も置き去りにしないことが重要

しごと



課題や長所	農業・金魚	<ul style="list-style-type: none"> ▼情報発信が少ない。◎金魚すくい大会や買農園は行われているが▼知られていない。 ▼農業・金魚産業の出荷販売についても知られていない。
	商業	<ul style="list-style-type: none"> ▼弥富には人が集まる店が無い。▼人が集まらないから店ができにくい。 ▼学生がアルバイトする場所も少ない。
	居住	<ul style="list-style-type: none"> ◎アパート・マンションはすぐに埋まるが、▼転入者の住んでからの感想がわからない。
取組アイデア	産業支援	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人がやりがいの持てる場所や社会経験できる場を作る。市民が集える場所にもなる。 ・ベッドタウンとして魅力を出す。学生(名古屋近郊通学の学生?)、高齢者がターゲット ・SNSなどで伝統産業を発信する。 ・伝統産業の後継者育成。後継者育成を行う企業へのサポートも。 ・子どもたちへ金魚産業の教育(子ども会等で弥富の風習や仕事を学ぶ機会を創出する。 ・他の地域の子どもも対象 ・他市町の人に弥富の伝統産業を体験してもらい、市民も見直す機会を作る。 ・市が市内の産業についてよく理解し、必要と思われるところへ産業支援の強化 ・市と商工会の関係が微妙だが、JAも含めて連携できるとよい。 (商工会に入っている産業にも限りがある。)
	観光	<ul style="list-style-type: none"> ・金魚を活用した観光。色々な人に関わってもらい、関係人口を増やす。 ・農地を活かした観光
	目指すべき将来像	-

5.第3回ワークショップ

オリエンテーション

取組を形にしていく際のポイントについて

グループワークの説明 60分

取組の検討ポイント 以下のことを意識して、検討を行ってください！

- ① 弥富市の地域の課題に対応している
: 当り前ですが、より良い弥富市になるための
- ② 3年以内に効果が現れそうを取組
: 長期約するものではなく、近年中に行い、効果
- ③ 事業費が莫大なものがない取組！
: 大きな事業も大塚ですが、先ずは一歩という
- ④ 行政だけでなく、市民の皆さんを
: この先、まちづくりに市民の皆さんが力が必要とするものをお願いします。
- ⑤ まち・ひと・しごと についての提案書
: 3つの分野は活動しているため、他のグループ
自分のグループの担当項目が何なのか、も

グループワークの説明 60分

まち・ひと・しごと についての再確認
まち・ひと・しごとの3つは連動して取組やアイデアを事前に反響するの難しい場合があります。今回のワークショップでは、下の表に示されている各グループが担当する項目を中心として話し合い、取組の案を発表してください。

まち	ひと	しごと
・まちの活力・利便性	・結婚、出産しやすさ	・雇用
・防災、安全性	・子ども、子育て	・働く場、働き方
・健康づくり、福祉	・学校	・産業(商工業、農水産業、金魚産業)
・観光交流、	・教育、生涯学習	・多様な人材の活躍
・移住・定住	・高齢者、くらし	

前回設定した目指すべき将来像の実現に向けた取組アイデアを市と市民が協働で市の事業として実行していくために、ひとつの事業としてまとめていく際のポイントを説明しました。

また、他グループと提案内容が重複しないように、再度「まち」「ひと」「しごと」の項目内容を確認しました。

グループワークの様子

The image shows a Zoom meeting interface. On the left, a presentation slide is visible with the following content:

弥富市 しごと

既存の産業に多くの人が参加できるような仕組み
大勢の人を対象にした、みんなが自分のことだと思える取り組み。サラリーマンの人も自分のことだと思えるようなこと。
※他の既存の産業を元気にさせるためにみんなでお手伝いする。

若い人がやりがいの持てる場所や場所を作る
アクションとして働かせるような人たちがこの街は必要としている。
自分ごととして捉える+新しい事業や新しいアクションを起こせる人を育てる。
若い人が意見をしてくれるようなことと結びつけたい。

若い人が働ける場所を作る
農地等の場所を生かし体験産業
広々とした農地は大事な資源。大都市近郊というのも資源。
フィールドを活用して、強さを体験してもらえるプログラム。体験を商品にした体験産業(観光産業・フィールド産業)をして、体験を通して情報発信をしていく。そうして関係人口を増やしていく。

働く世代、子育て世代を対象

On the right side of the Zoom window, a grid of video thumbnails shows several participants engaged in the meeting.

「まち」「ひと」「しごと」の中から前回と同じテーマで、取組アイデアをより掘り下げて考えていく話し合いを行いました。

誰をターゲットにするのか、取組の内容は何を行うのか、誰がやるのか、誰と連携するのか、それによってどんな効果が見込めるかなどを具体的に考え、3か年の取組ということも踏まえて意見交換が行われました。

計画の期間が短いことから、ハード面よりはソフト面においての取組について積極的に話し合われました。

取組が採用された際には自分たちも活動に参加する気持ちで、を合言葉に具体的な内容が盛り込まれた提案になっています。

最後には全3回のワークショップの最終回のまとめとして、各グループからテーマに沿って行っていききたい取組についての発表がありました。

6.市民からの提言 ～第3回のまとめを兼ねて～

今回は、参加者の皆様には「こうなったらいいな」という意見だけでなく、「実際に弥富市の事業として行い、自らもその事業に関わっていくこと」を前提に、「まち」「ひと」「しごと」の各グループから1つ以上の取組提案をしていただきました。

参加者の皆様からいただいた貴重なご意見は、第2期総合戦略の中で市の事業として実施することを念頭に、今後、所管となる関係部署や他の類似事業との兼ね合いなどを調整していきます。

ワークショップ後のアンケートでは、参加者の多くの方が「実際に事業が動き始めたら一緒に活動する気持ちがある」と回答していただきました。

住んでみたい、住み続けたい弥富市を目指して、市民と協働のまちづくりを進めていきます。

住んでみたい！ 住み続けたい！ “弥富”を実現するための取組提案

まち



取組のタイトル	取組の具体的な内容
<p>エンジョイ アドベンチャー in やとみ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・弥富市民(若者)が参加する、防災を前面に打ち出さない防災イベントを行う。 ・コンテンツは、実際に災害時の経験ができるサバイバルゲームやコンテナ迷路、空からまちの様子を俯瞰するバルーンやヘリ乗車体験を提供 ・友達を誘いやすくするため、楽しさを感じる食べ物の屋台(このあたりのグルメキッチンカー)などでお祭りの雰囲気を出す。 ・トマトや米などの特産品を使ったメニューを開発・出品 ・若者に刺さるインパクトのある周知

住んでみたい！ 住み続けたい！

“弥富”を実現するための取組提案

ひと



取組のタイトル	取組の具体的な内容
シビックプライドアップ 弥富 「やるじゃん！弥富！」	<ul style="list-style-type: none"> ●イベントの開催、市民一緒の運営 (内向きに)地域に住んでいる喜びを大事にしていく取組として地域ぐるみでのイベントを行う。 農村部で農業体験や世代間交流ができるイベントを開催する。 (外向きに)名古屋市へ向けてのイベント 弥富市の魅力を知ってもらうためのイベントを名古屋にポイントを絞って開催
「あなたに寄り添うま ち・弥富」 誰一人取り残さない弥富	<ul style="list-style-type: none"> ●弥富市の情報発信 ・地域団体やその団体が行っている取組を市内外に広く知ってもらうため、マップや一覧表を作る。例えば、貸農園を行っているマップを作り、不動産屋を巻き込みながら情報発信していく。 ・市の情報を盛り込んだマップを作り、名古屋市内の駅や区役所に置いてもらう。 ・市民と一緒に弥富のアプリを作って弥富の情報発信を双方向でできる仕組みを作る。

住んでみたい！ 住み続けたい！

“弥富”を実現するための取組提案

しごと



取組のタイトル	取組の具体的な内容
「林さん、金魚養殖を はじめるんだってよ」 プロジェクト ～仕事の悩みを解決す ためのカフェ運営～	<ul style="list-style-type: none"> ■ターゲット: 運営は若い人。そこに社会経験を積んだシニアが参加・協力する。 ■何をするか: 課題を考え、ゴールを設定し、それをどう実行するかを計画して実行する。そのプロセス自体を事業にする。若い人が運営し、シニアが専門知識を活かして協力する。市は、担当において事務局を立ち上げる。その場として、お仕事カフェをつくり、市民が課題を共有しその解決をみんなで考えていけるスペースとする。 ■事業の効果 弥富市の仕事にかかわる課題の解決の一助とする。若い人はこの経験を通して将来への糧とする。シニア世代は、自分の経験を生かし、やりがいを育む。 ■スケジュール 【1年目】悩みを持つ人が訪れて気軽に相談できるスペースをつくり、スタッフが悩み(課題)を吸い取る。そこからプロジェクトを立ち上げてトライを1つ行う。そのためのスペースの広報を行う。課題解決を行うためのベースとして弥富市の仕事や人材についてのデータベースをつくる。 【2年目】トライアンドエラーで試行錯誤を繰り返し、いい感じにできるようにする。 【3年目】継続を視野に入れ、まわしていけるように(自走できるよう)今後の活動内容を考える。